
とあるチートな転生者と禁書目録

サンダー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるチートな転生者と禁書目録

【Nコード】

N0184N

【作者名】

サンダー

【あらすじ】

とある少年、波才 雷はベランダから落ちて死んでしまい
新たな生を貰い禁書目録の世界でやりたい放題する話です

転生！！（前書き）

駄作にしたいと思いますが見ていってください

転生！！

どうも、何の取り柄もない人間、波才^{ライ}雷です

今、ぼくは真っ暗な空間の中に居ます

さて、どうしてでしょうか。正解は窓から転落しまして

正確にお答えすると死んだと思います

まさか、二階のベランダに洗濯物を干しているときに

強風が吹くとは思いませんでした

というわけでそこからの記憶がありません。どうしたものでしょうか？

おつ、あんなところに光が、行ってみましょう

そこには鼻を押さえているおじいさんが居ました

ここがどこ尋ねてみましょう

「ねえねえ、おじいさん。ここはどこなの？」

するとおじいさんが振り向き話してくれました

「ここは神の世界じゃ」

はい、ぼく死んだこと確定。僅かな希望がなくなりました
まあ、遣り残したことも無いからいいけど

しかし、神の世界だと言うのだからこのおじいさん神様かな？

「そうじゃ、ワシは神じゃ」

心を読まれました

「読まれて当然じゃ、なにせワシは神だからのう」

神にプライバシーは無いようです

まあいいです

「それで何でぼくはここにいるのでしょうか？」

「ワシがくしゃみをしてしまったせいで突風がふいてのう。

運悪く死んでしまったのが主なのじゃ。本来ならだめなのじゃが
転生させてやろうと思つてのう」

心優しい神様です

「ほっほっほ、嬉しい事を言うではないか。

特別に漫画とかの能力をやろう。何がいいかのう？」

思わぬところで特典がついてきました

「じゃあ、伝説の勇者の伝説の複写眼とある魔術の禁書目録の全
能力、

レベル5で、あと魔術を使つたときの反動なし。身体能力は聖人並。
演算脳力はツリーダイアグラム並で。他にはえーと他人や自分に能
力を追加
するもので」

「これはまたチートじゃのう」

頼めるものは頼まないといけません

「まあいいでは世界はどこにする？」

「とある魔術の禁書目録でお願いします」

「心得た、では転生させるぞい」

下から光が現れてぼくを包み込んでいく

「ありがとうございます」

しっかりお礼を言っていると神様が「頑張るのじゃぞ」と
言って励ましてくれました
これからが楽しみです

転生！！（後書き）

感想待ってます

波乱の登校

無事転生できた波才 雷です

ぼくはここ学園都市の中に転生されたようです
今のところこの学校かわかりません

とりあえず寮の自分の部屋をでて横の部屋の人の名前を確認しました
なんと上条さんの部屋ではありませんか
神様あなたいい人です

おや？ポケットの中に紙が入ってますね
なになに

「お主は転校生として学校に入ることになった。
ちなみに嬉しかろうと思って横の部屋の人は原作の主人公じゃ。
あまりやんちゃするで無いぞそれでは」

やはり神様あんたはいいひとだ
では早速上条さんに会いに行ってみましょう

コンコン ガチャ

「どちらさまでせうか？」

「隣に住むことになった波才 雷です。これからよろしく願います」

「転校生か？俺は上条 当麻。よろしくな」

これが上条さんあえて感激ですう

「えっと失礼なんですが、明日学校への道を教えてくれませんか？」

「ああ、いいぜ。なら明日一緒に行こうぜ」

「ありがとうございます。ではまた明日」

「ああ、明日な」

こうして上条さんと別れて部屋に戻り後は寝ました

翌日、寝坊しました。大変です

上条さんまだ部屋に居るでしょうか

急いで部屋を出ると横で扉が開く音がしたので横を向くと
上条さんがでてきました

「おはようございます。上条さん」

「ああ、おはようってそんな場合じゃない早く行かないと遅刻だ！
！」

そういつて二人で全力疾走し学校へ向かいました

なぜか不良に絡まれて追っかけられてます

「待てやデメエ等!!」

どうやら上条さんの不幸スキルが発動したようです

「すまねえな、俺のせいで巻き混じまって」

「いいですよ、ところで上条さん。時間大丈夫でかね？」

時計を見てみるとチャイムが鳴るまで後10分

「不幸だーーーーー!!」

どうやら間に合わないようです

おっとそういえば能力があるじゃないですか
そうと決まれば

「上条さん、しっかり握っててください」

そういつて上条さんの左手をとる

「え、何」

ベクトル操作でダッシュ

さすが並みの速さではありません

横の上条さんはなにやら叫んでいるようですが
早く移動しているので聞こえませんが

後で聞きましたが上条さんは

「不幸だー」
と叫んだらしいです
意味がわかりません

転校初日！！

波乱の登校が終わり無事？学校につけました
上条さんは泡吹いていますが大丈夫でしょう
おっここでこんなことをしていたら遅れてしまいます
上条さんを下駄箱に置き職員室を目指します
ちなみに上条さんは気絶したままです
そんなこんなで職員室に着きました

「失礼します」

しつかり礼儀正しく職員室に入ります
するとなんとそこには小学生が！！

「おはようございますなのですよー」

「お、おはようございます」

何？この小学生！

「ええと、ここは高校じゃありませんでしたか？」

「はい。ここは高校なのですよー」

ほっ、よかった

「ならなぜ誰も小学生が居ることに驚かないのだろうか」

「もしかしてあなたが今日転校してきた波才ちゃんですか？」

「はいそうですけど」

「何故小学生がぼくの名前を！！」

「私があなたのクラスを受け持つ子萌先生なのですよー」

「えっ！！先生？小学生じゃないの？」

「これは驚きの展開。冗談でしょう？」

「先生は小学生じゃ在りません！！立派な先生なですよ」

「何か涙目になってるよこの人」

「やばい、どうしよう泣かせちゃったよ！！」

「先生、落ち着いて。ね？早速教室に行きましょう？」

「そ、そうなのでした。忘れてたのです」

「よかった。転校初日に先生泣かしたなんて噂になったら俺のスクールライフが危うくなるところだった」

先生に連れられ教室にやってまいりました
中ではなにやら先生の言葉で盛り上がっているようです

「どうぞー」

お呼びがかかったので教室に入ると変な雰囲気でした
女子のテンションはやたら高いのに男子のテンションの無さといっ
たらもう
なんでしょうかねこの温度差
まあいいです自己紹介です

「初めまして波才 雷です。学園都市外の学校から転校してきました。
た。

能力はまだわかりません。これからよろしく願います」

何事も最初が肝心ですね

「じゃあ波才ちゃんの席はあそこです」

後ろの方ですか。よかった居眠りには最適です

「そういえば上条ちゃんはいないのですか？」

あ、上条さんまだ着て無いってことは……………
ばくのせいじゃありませんよ……たぶん

そしてその後HRが終わったとき
学校中に「不幸だーーーーー」と言う声が響き渡っていたとかいな
いとか

ビリビリと遭遇

転校初日が無事？に終了しかけたときのこと

雷は普通に下校中だった

「うーん。今日はもう終わりが。楽しかったな」

そんな気の無いことをしゃべっていたとき、ある集団を見つけた
女の子を集団で囲みエスコートと言う名のナンパをしているようだ
上条さん、出番ですよ！！

まあそんなに都合よくは行きませんか
仕方ありませんね

「ちょっとそのあなた方。その子嫌がつてるじゃないですか。
やめてあげなさいよ、みつともない。その歳になって妄想と現実の
区別も
わからないんですか？」

軽くジャブな挑発をしちゃった、てへ

「てめえ、調子に乗ってんじゃねえぞ！！」

「いやですねえ。調子に乗ってませんで。その子まだ小さい子供じゃないですか。」

大人気ないことしちゃダメって注意してあげてるんですよ」

またまた挑発。そろそろ殴りかかってきますかね、はい

しかしその予想は大外れ

よく見ると女の子正体はビリビ

ズカジャア

訂正しよう暴れ牛だ

「あーあ。こんな奴らに能力使っちゃった。で、何であんたは無事なわけ？」

危ないですよー。とっさに一方通行を使ったからよかったけれども当たったらどうするつもりですかー

「まあいいわ。あんた、あたしと勝負しなさい!!」

これは上条さんの役目ですよー

上条さん早く出てきてよ、お願い

これからこの人に付きまとわれるんだよー

救われぬものに救いの手を頂戴よー上条さん

「逃げるが勝ち!!」

全力疾走逃げろやつほー

その後そのレースは三時間続いたとか

翌日、私は上条さんに八つ当たりしました

八つ当たり内容、クラスにあらぬ噂を流し襲わせる

なんだか上条さんをいじめるのが快感になってきてます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0184n/>

とあるチートな転生者と禁書目録

2010年10月10日23時56分発行